



# 東京都交通局 経営計画 2016

平成28年2月  
(概要版)

Bureau of Transportation  
Tokyo Metropolitan Government

 東京都交通局  TOKYO

交通局ホームページ <http://www.kotsu.metro.tokyo.jp/>  
計画の全文は、東京都交通局のホームページに掲載しています。



 東京都交通局

## ■ 計画の位置づけ

本計画は、これからの交通局の経営の方向と、それを実現していくための具体的な取組を示したもの

## ■ 計画期間

- 平成28年度から平成33年度までの6か年
- ※前期3か年(平成28年度から平成30年度まで)は、年次計画を記載
- 後期3か年の年次計画は、平成30年度に策定予定

## ■ 経営の基本的な考え方

- 「安全・安心の確保」「質の高いサービスの提供」「東京の発展に貢献」「経営基盤の強化」の4つの方針で事業を展開
- ⇒「世界一の都市・東京」の実現に貢献
- 史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現に向け、国内外から東京を訪れる多くのお客様に対し、安全で安定した輸送を提供するとともに、誰もが便利で快適に都営交通を利用できるよう、ハード・ソフト両面から取組を加速

## ■ 財政収支計画

事業	事項	28年度	29年度	30年度
高速電車事業 (都営地下鉄)	経常損益	200億円程度の黒字で推移		
	収支目標	累積欠損金の縮減に努める		
自動車事業 (都営バス)	経常損益	9～19億円程度の赤字で推移		
	収支目標	経常損失の改善に努める		
軌道事業 (都電荒川線)	経常損益	3～4億円程度の赤字で推移		
	収支目標	経常損失の改善に努める		
新交通事業 (日暮里・舎人ライナー)	経常損益	9～13億円程度の赤字で推移		
	収支目標	経常損失の改善に努める		
電気事業 (発電)	経常損益	3～6億円程度の黒字で推移		
	収支目標	経常利益の確保に努める		

## ■ 計画事業費(前期3か年計)

4つの方針	区 分 (単位:億円)			
	28年度	29年度	30年度	3か年計
安全・安心の確保	323	379	399	1,101
質の高いサービスの提供	199	139	225	564
東京の発展に貢献	42	47	92	182
経営基盤の強化	11	3	3	17
合計(重複控除後)	481	492	602	1,574

## 経営理念

私たち都営交通は、都民やお客様に信頼され、支持される公共交通機関として、安全・安心を何よりも大切にし、東京の都市活動や都民生活を支えていきます。

## 経営方針

- 都民やお客様の信頼に応えるため、安全・安心を最優先し、全職員が一丸となって、災害に強く、事故のない都営交通を実現します。
- お客様が求める質の高いサービスを提供し、快適で利用しやすい都営交通を実現します。
- 首都東京が抱える様々な課題に果敢に挑戦し、東京の発展に貢献する都営交通を実現します。
- 事業環境の変化にも迅速かつ的確に対応するとともに、中長期的に安定した事業運営を行っていくため、経営基盤を強化します。

## 計画期間における取組(事業体系)

### 1. 史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現に向けた取組

- 東京2020大会に向けた都営地下鉄の主な取組
  - 東京2020大会に向けた都営バスの主な取組
- ※東京2020大会に向け加速・実現する取組を抜粋

### 2. 安全・安心の確保

- 安全対策の強化
- 災害対策等の強化
- 安定的な輸送を支える基盤整備
- 安定的な電力供給を支える基盤整備

### 3. 質の高いサービスの提供

- 輸送需要への的確な対応
- 便利で快適な移動空間の創出
- 新たなバスモデルの展開
- 公共交通ネットワークの利便性向上
- 旅行者にも利用しやすい環境の整備
- サービス品質の持続的向上

### 4. 東京の発展に貢献

- まちづくりとの連携
- 観光振興及び文化振興への貢献
- 持続可能な社会の実現への貢献
- 沿線地域の発展に貢献
- 都政情報等の発信への協力

### 5. 経営基盤の強化

- 関連事業の推進
- 安定的な人材の確保と育成
- 職員のやる気と能力を引き出す環境づくり
- 安定的な事業運営を支える執行体制の構築

## 1. 史上最高のオリンピック・パラリンピックの実現に向けた取組

### ■ホーム事故「0」を目指した取組

#### ○新宿線へのホームドアの整備

平成31年度までに全21駅にホームドアを整備します。

#### ○浅草線へのホームドアの整備

東京2020大会に向けて、泉岳寺駅と大門駅の2駅において、車両の改修を伴わない方式により先行的にホームドアを整備します。あわせて、技術開発の動向も注視しながら、関係各社との協議を継続し、全駅整備を目指します。



▲大江戸線ホームドア

### ■水素社会の実現への貢献

都営バスに燃料電池バスを先導的に導入することで、燃料電池バスの普及促進を図り、水素社会の実現に貢献します。



燃料電池バス▶

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
2両導入	順次導入拡大	→	80両導入	

### ■臨海地域におけるバス路線の拡充

豊洲市場の開場や東京2020大会後の選手村のまちづくりなど、臨海地域を中心に急増する輸送需要に対し、路線を拡充するとともに、新たな営業所を設置します。

### ■大会期間中の輸送対応

#### ○競技日程に応じた運行

他の交通事業者等と連携しながら、都営地下鉄や都営バスの運行時間の延長や増発等について具体的な検討を進めます。

#### ○大会運営への協力

都営バスについては、1,400台余りの車両を保有し、大規模なイベント開催時の臨時輸送対応のノウハウがあることから、大会期間中のシャトルバスの運行等について関係機関への協力を積極的に行います。

#### ○観戦者への円滑な案内

競技会場の最寄駅等において、わかりやすい案内表示を行うとともに、ボランティアとも連携し、駅やバス停留所から競技会場までの円滑な誘導に努めます。

#### ○多言語によるバリアフリー情報の提供等

東京2020パラリンピック競技大会の開催も見据え、海外から訪れる障害をお持ちのお客様も安心して快適に都営交通を利用できるよう、バリアフリー情報を多言語で提供するとともに、介助を必要とするお客様へのサポート体制の確保に取り組みます。

#### ○大会情報の発信

都営地下鉄や都営バスの車内液晶モニター等を活用し、競技結果等を随時提供するなど、開催都市の交通機関として大会情報の発信に協力します。

## 2. 安全・安心の確保

### ■首都直下地震への備え

都営地下鉄では、平成23年に発生した東日本大震災を踏まえ、施設等の安全性をより一層高めるとともに、早期の運行再開を図るため、更なる耐震対策として、高架部の橋脚及び地下部の中柱の補強を進めます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
順次実施	→	約5割 工事完了	約7割 工事完了	阪神・淡路大震災を踏まえた国の通達に基づく耐震対策は実施済

### ■地下鉄の浸水対策の強化

地下鉄の駅と接続する建物を保有する民間事業者等との連携を強化し、避難誘導訓練等を実施します。

他の施設からの浸水を防ぎ、鉄道施設を守ることで早期の運行再開を可能とするため、地下鉄の駅と接続している地下街やビル等の出入口についても、関係者の協力を得ながら、浸水防止に向けた検討や調整を進めるとともに、今後予定されている新たな浸水想定区域の公表等を注視しながら適切に対応します。

### ■テロ対策の強化

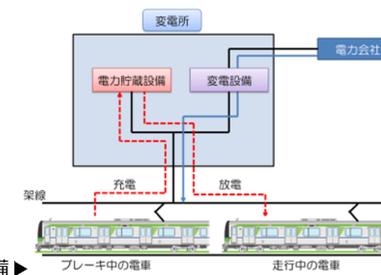
東京2020大会やラグビーワールドカップ2019などを控え、都営地下鉄各駅における監視カメラを増設するなど、監視体制を強化するとともに、サイバーセキュリティ対策も含め、これまで以上に関係機関等との連携を強化します。

職員や警備員による警戒を強化するとともに、専門家の助言を得ながら訓練や研修を実施します。また、テロ対策に資する新技術の開発動向にも注視しながら、より効果的なテロ対策の強化に取り組みます。

### ■非常時における電源の確保

非常時に電力供給が停止した場合において、地下鉄駅構内だけでなく車両にも電気を供給するなど、お客様がこれまで以上に安心して避難できる体制について検討を進めます。

都営地下鉄では、平常時に電車線電圧の安定化や省エネに有効であり、停電時にも電力確保の効果が期待できる電力貯蔵設備を、実証試験の効果検証を踏まえて導入します。



電力貯蔵設備▶

### ■地下鉄構造物の長寿命化

トンネル等の地下鉄構造物について、長寿命化及び補修費用の平準化を図るため、予防保全型の管理手法に基づき、浅草線、三田線で計画的に補修を進めます。

経年や塩害等による地下鉄構造物の劣化に対応し、はく落防止と機能回復を図るため、トンネル、高架区間、駅部について、健全度を調査の上、止水・塩害対策を計画的に進めます。

### ■発電所の施設・設備の更新

多摩川第一発電所及び第三発電所の水圧鉄管等の水路工作物や白丸調整池ダムの堤体について詳細に点検の上、健全度調査を実施し、その結果を踏まえて施設・設備の更新を行います。また、発電出力を増加させる等、再生可能エネルギーの創出拡大に努めます。



多摩川第一発電所▶

### 3. 質の高いサービスの提供

#### ■輸送力の増強とダイヤの見直し

大江戸線については、近年、乗車人員が急増しており、今後も臨海地域等の開発による需要の増加が見込まれるため、勝どき駅の大規模改良工事に合わせ、平成30年度中に3編成を増備します。新宿線については、車両の更新にあわせて8両編成から10両編成にし、輸送力を増強します。日暮里・舎人ライナーについては、朝ラッシュ時間帯における混雑緩和を図るため、平成28年度に1編成増備するとともに、更なる対策を検討していきます。

#### ■駅施設の改良

##### ○乗換駅等でのエレベーター整備

東京メトロなど他の事業者とも連携を図りながら、乗換駅等へのエレベーター整備を進めます。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
順次増設	→	→	16駅	

##### ○トイレの改修

老朽化している浅草線、三田線、新宿線のトイレについて、出入口の段差解消やベビーチェア・ベビーシートの増設、洋式トイレへの改修、パウダーコーナーの設置、抗菌材の使用など、機能性と清潔感を備えたトイレにグレードアップします。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
順次整備	→	→	31か所完了	浅草線・三田線・新宿線

#### ■新たなバスモデルの展開

高齢化の進行及び訪日外国人旅行者の増加といった事業環境の変化や東京2020大会の開催を踏まえ、わかりやすいバスを目指し、従来の都営バスとは異なる車両デザインの採用、系統ナンバリングやLEDカラー行先表示器の導入、複数の車内液晶モニターを活用した多様な情報提供など、誰もが円滑に利用できる新たなバスモデルを提示します。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
路線選定仕様検討	試行実施	検証・拡大	5系統で展開	

#### ■旅行者の視点に立ったサービスの充実

##### ○誰もが利用しやすい券売機の導入

自動券売機について、更新にあわせて対応言語を増やします。また、路線図などから検索可能で操作性の高い多言語対応券売機を新たに導入します。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
(券売機等) 順次更新	約110台更新	約250台更新	—	定期券券売機を含む
(路線表示機能付券売機) 32台導入	—	—	—	

##### ○地下鉄車内の無料Wi-Fi環境の整備

日本での通信環境を持たない訪日外国人旅行者でも、手持ちのモバイル端末で移動中に必要な情報を入手できるよう、都営地下鉄車内で無料Wi-Fiサービスを提供します。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
順次整備	→	→	全車両整備完了(東京2020大会まで)	

### 4. 東京の発展に貢献

#### ■まちづくりと一体となった泉岳寺駅の大規模改良

品川駅周辺地域は、羽田空港に近く、世界と日本各地を繋ぐ結節点としての役割が期待されており、日本の成長を牽引する国際交流拠点として開発が進められています。この地域内にある浅草線の泉岳寺駅について、市街地再開発事業と一体となって大規模改良工事を行います。

ホームやコンコースの拡張、エレベーターの増設、JR新駅との歩行者ネットワークの形成など、乗降客の増加に的確に対応するとともに、交通結節点としての機能を充実させます。また、相互直通運転各社と連携し、空港アクセスを強化します。

平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成33年度までの到達目標	備考
都市計画変更手続実施設計	都市計画変更施設変更認可	工事着手	—	拡幅ホームの供用開始は平成36年度(予定)

#### ■勝どき駅の大規模改良

周辺の開発により乗降客が大幅に増加している大江戸線の勝どき駅について、平成30年度の供用開始に向けて、ホームの増設やコンコースの拡張等の大規模改良工事を進めます。



▲勝どき駅の大規模改良後のイメージ

#### ■浅草線のリニューアルプロジェクト

羽田・成田両空港を結び、浅草や銀座といった東京を代表する観光地をつなぐ路線の特性を最大限に活かし、古き良き伝統を守りつつも現代的な地下鉄に生まれ変わるため、“Tokyoと世界を結ぶ地下鉄”というトータルコンセプトに基づき、全ての車両を更新するとともに、駅構内の改装や駅出入口の改修等を計画的に進めます。

#### ■観光施策との連携強化

##### ○「&TOKYO」を活用した事業PR

都が策定したロゴ・キャッチコピーである「&TOKYO」を事業運営の中で積極的に取り入れるなど、「東京ブランド」の確立に貢献します。

##### ○駅構内への観光案内用デジタルサイネージの設置

旅行者等が周辺観光案内など、必要な情報を容易に入手できるよう、関係局等と連携し、観光案内用デジタルサイネージを地下鉄駅構内に設置します。



▲「&TOKYO」によるPR(都電荒川線)

### 5. 経営基盤の強化

#### ■関連事業の推進

長期的な視点に立ち、局が所有する不動産の有効活用を進め、安定した収入を確保するとともに、市街地再開発事業への参加などにより周辺のまちづくりに貢献します。

広告事業について、新たな手法や民間事業者等の創意工夫も柔軟に取り入れながら、時代やニーズに即した積極的な展開を図ります。

#### ■グループ経営の推進

東京2020大会に向けた準備や大会期間中の対応はもとより、開催後の事業展開も見据えて、局と関連団体がグループ総体として最大の経営効果を発揮するよう努めていきます。